



二、雨と雪

A 雨

洪水「おーい、土手がきれるっぞーっ」。

「水だ。水だ。水がくるぞーっ」。

星一つ見えない暗い夜空に、けたたましい叫び声が、消えてはまたつづいています。

あれほどがんじょうに土俵でかためていた堤防も、ついにやぶれたのでしょうか。さきほどから、半鐘がつづけざまに打ちならされています。耳をすますと、かんだかい人々の叫びに混じって、ごう

ごうというひびきがきこえてくるようです。

表の通りへ出ると、人々があらそって山手へ山手へとにげていきます。むこうの電信柱には、もう白い水しぶきが光って、あたりはものすごい水音のほかに、何もきこえないくらいです。ぽつりぽつりと大坪の雨が肩を打ち始めました。



昭和二十二年九月、カザリン台風の襲来によってひきおこされた利根川堤決かいの大洪水の惨害は、なお、人々の記憶に新しいことだと思います。田畑はもちろん、橋も家も、人や家畜さえも、あれくるう濁流のためにおし流され、失われてしまいました。この同じ年には、東北地方にも水害がありました。また、十数年前の昭和九年には、関西に大風水害があつて、おびただしい損害をおうむりました。

このように、文明がすすみ、自然の災害を防ぐ方法や設備が発達した世の中でも、台風にともなう大雨は、実に大きな被害をひきおこしています。まして、人智のひらけない昔には、どんなに恐ろしい害を受けていたことでしょう。

世界の各地には、たいがい、大雨や大水にまつわる伝説がのこっています。それは大雨が何日も降り続いて川があふれ出し、橋が流され、苦心してたがやした田も畑もねこそぎあらされ。そればかりか、家が流され、人間や動物もおぼれてしまう、そのおそろしい経験からうまれてきたものです。

水とたたかう人々

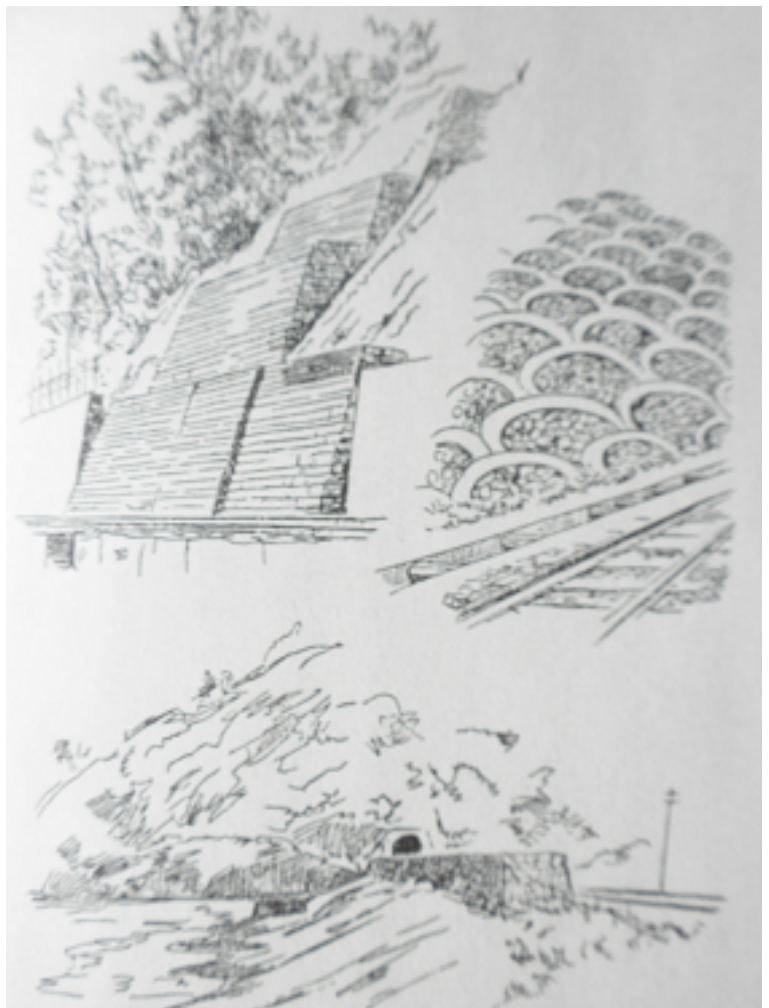
けれども、人々は、大水の害をただおそれ、それに降参していたのではありません。川の両がわに土手をきずいたり、水はけをよくするために、新しいほりや川を掘ったりして、大雨が降って、川の水が多くなっても、それがあたりにあふれ出さないように、いろいろとふくうをこらしてきました。それに新しいほりや川を掘って水をおさめることは、農業をさかんにするためにもたいせつなことでした。

もっとも、機械類がそれほど発達していなかった昔のことですから、それはなかなか大仕事でした。しかし、川の水をおさめることができれば、それによって附近の土地の人々がたいへん助かるわけですから、その仕事をうまくやりとげることができた人は、人々から尊敬され、時には人民のかしらとしてあがめられることがありました。

中国の黄河下流の平野は、昔から中原の地とよばれ、人々の多く集まり住んだところでした。ところが、黄河は、上流で大雨があるごとにあばれだして、人々を苦しめました。そのため黄河の水をおさめることは、そのころの人々のただ一つの願いといってもよかったです。したがって、その黄河の治水事業をうまくなしとげ、人々の苦しみを救った者は、人々からうやまわれて、王の位にもつけられたということです。

わが国でも大雨が降ったりすると、たちまち川があふれて、大水になるおそれがあります。そのため、やはり土手をきずいたり、新しい水はけのほりをつくったり、水源地である山々の水を保護したりすることに、人々は努力してきました。

東北地方や北海道では、春さきに大水の出ることが多いのですが、それは雨がたくさん雪をとかし、雪ど



けの水といっしょになって、せまい川からあふれ出るためです。

そのほか、大雨が降ると、地すべりや山くずれがおこることがありますが、それは雨が土地のなかにしみこんで、地盤をゆるくするからです。鉄道ではたらく人々は、大水や山くずれや地すべりと常にたたかっています。線路の両側の急な斜面に、石がきやコンクリートのかべをきずいたり、水はけをよくしてたりして、山くずれをふせいでいます。川にたいしては、石や土をつめたわらをつんで、砂が流れ出すのをふせいだり、川の土手をなおしたり、排水路を増やしたりして、常に注意をおこたりません。そのほかにもどんな方法があるか、しらべてごらんください。

人々の努力のおかげで、今日、大水の害は、昔にくらべれば、ずっと少なくなっています。けれども、あまり雨が降りつづいたり、はげしい雨が降ったりすれば、人々がせっかくつくった土手が、いつくずれだすかわかりません。そのため、川の近くに住んでいる人々や、鉄道で働いている人々は、大雨があるとまるで戦争がはじまったかのようにきんちょうします。土手がくずれて、水がなだれこんだときのさわぎと、人々の活躍は、とても口でいいあらわすことができません。人々は、ただ必死となって、くずれはじめた土手を守ります。それでもなお雨がやまなければ、もういけません。人々は、天をあおいで、一時も早く雨が降りやみ、水がひくののをいのるほかありません。なんとかして、大水の害を、まったくなくしてしまう方法はないのでしょうか。

(社会科教科書 気候と生活 P 80～84)

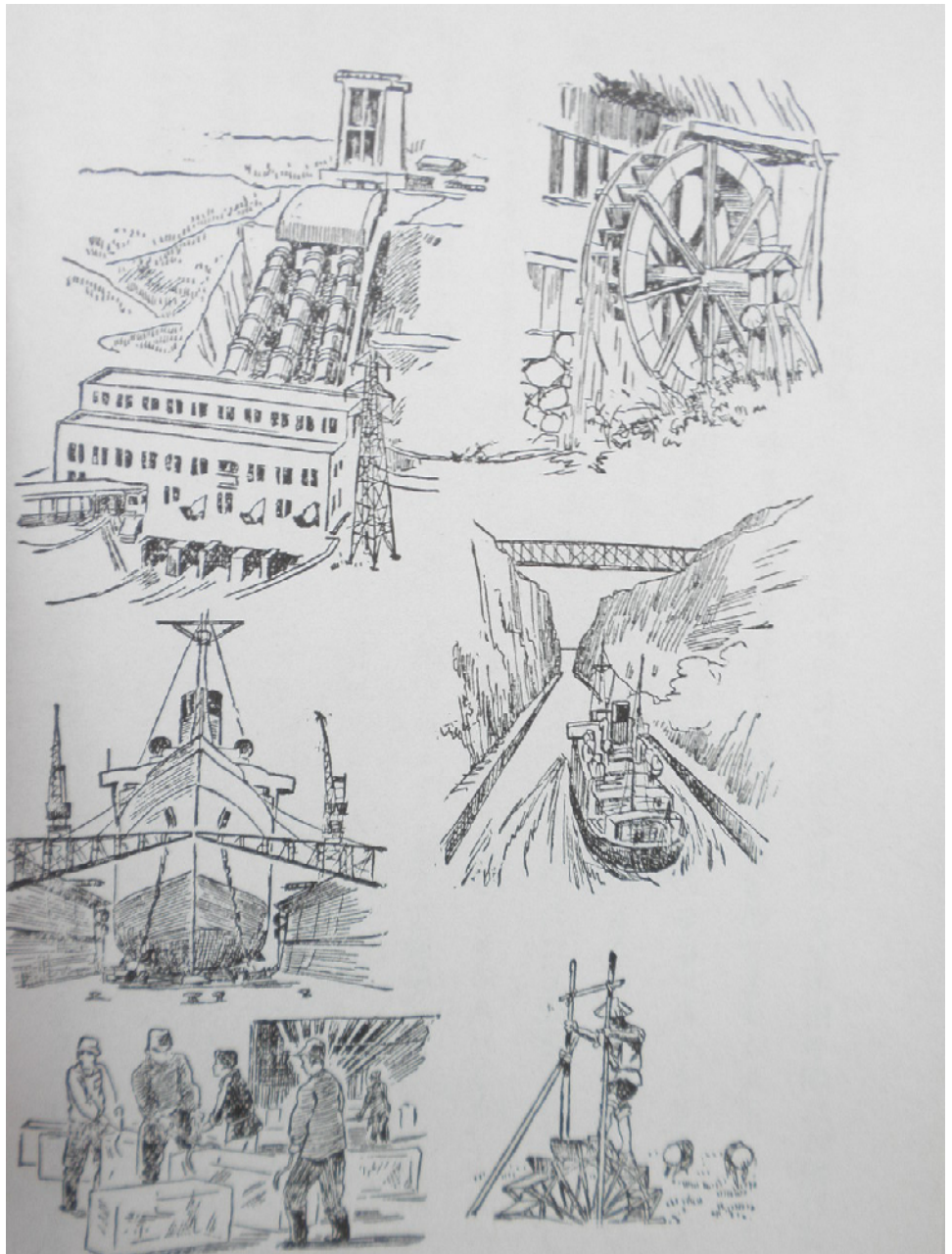
ひでり

大雨とは反対に、雨がふらなかったらどうでしょうか。田や畑には、ひびわれができ、せっかく苦心してそだてた作物も、しおれて、かれてしまいます。とくに稲田をつくっているわが国では、雨が少ないとたいへんです。田植えときには、雨が降らなければ、稲を植えることができなくなってしまいます。水不足の年には、農家の人々が心配そうな顔をして、少なくなってきた川の水や、池の水をい

っしょうけんめいポンプでくみあげているのをみうけます。

したがって、雨の少ない地方では、水ききにそなえて、人工的な池をつくり、雨が降ったときに、ほうぼうの水をたくわえておくようにしています。わが国では、瀬戸内海の沿岸、ことに讃岐平野などが、雨の少ない地方なので、人工のため池が、いたるところに発達しています。

このように、雨が降らないと、農家の人々がこまることはわかりますが、そのほか雨が降らないときには、どんなこまったことがおこるでせうか。今では、たいていの大きな町では、人々は水道を引いて、きれいな水がてちかで自由にえられるように苦心しています。たいていの場合は、谷川をせきとめて、貯水池をつくり、そこから水道をひいてくるのです。しかし、長いあいだ雨が



降らないと、貯水池の水もしだいにすくなくなっていて、水を節約するために、一定の時間だけしか給水しないことさえおこってきて、不自由な思いをすることがあります。

これとおなじことが、電気の場合にもしばしばおこります。わが国では、冬になると雨量が少なくなっていて、川の水が減り、そのため電力がたいへんとぼしくなります。そんなとき、電力を節約するために、私たちは、いろいろと苦心しなければならぬことがおこるのです。

川の水も少なく、井戸も掘れず、水道も引くことの出来ないような土地では、雨水がただ一つの用水となります。大島などの人々は、各家ごとに、井戸と呼んでいる雨水をためるタンクをそなえつけて、雨が降った時、屋根から流れ落ちる水を受けて、たくわえておきます。大島は雨も多く、ふだんはそんなに水にはこまりませんが、ひでりがつづくとき、たちまち水にこまってしまいます。そんなときには、水を内地からわざわざはこぶようなことさえおこってくるのです。

日本各地の降雨量

地 名	一 月	八 月
鹿児島	78.7	194.3
福岡	66.6	145.3
松 山	50.2	104.5
高 知	62.6	320.4
浜 松	106.6	122.3
境	197.4	134.0
岡 山	34.9	97.8
京 都	55.2	147.4
大 阪	44.4	111.7
潮 岬	72.4	278.1
名古屋	52.1	168.3
東 京	49.6	154.9
金 沢	277.1	157.6
松 本	39.1	108.5
宇都宮	33.7	286.9
新 潟	193.1	117.7
山 形	97.6	142.3
仙 台	35.7	124.6
宮 古	61.7	162.6
秋 田	130.1	185.8
青 森	144.5	119.2
函 館	66.9	134.1
札幌	86.7	107.8
旭 川	72.5	125.4
根 室	38.4	106.5

(単位はミリメートル)

雨 の 量

雨の量は、ふつうは、雪やみぞれやひょうの量もふくめて、降水量とよんでいます。そして、その降水量を、私たちはミリメートルであらわしています。つまり、雨水がみんな地面の上にたまったと考えて、そのたまった深さを何ミリメートルとかぞえ、雨の量をいいあらわすのです。

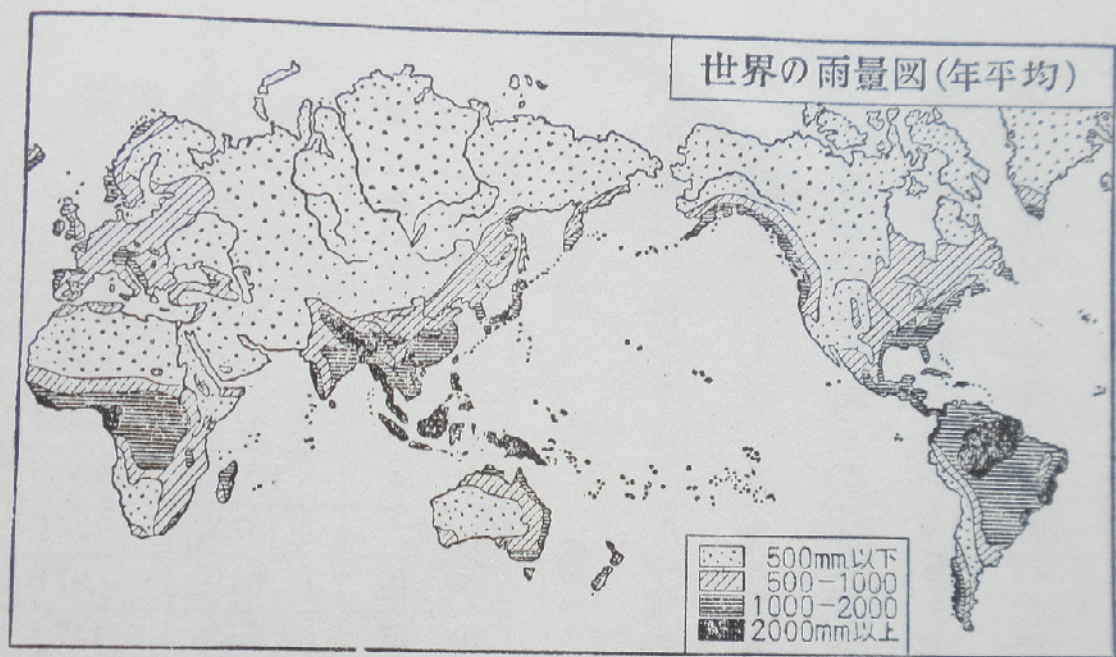
ある土地に、一年間に降った雨量をを合計したものが、その土地でその年に降った降雨量です。各地方の、またいろいろな土地の、雨の多い少ないは、このような一年間の降雨量をもとにしてきめるのがふつうです。

雨の多い土地と少ない土地

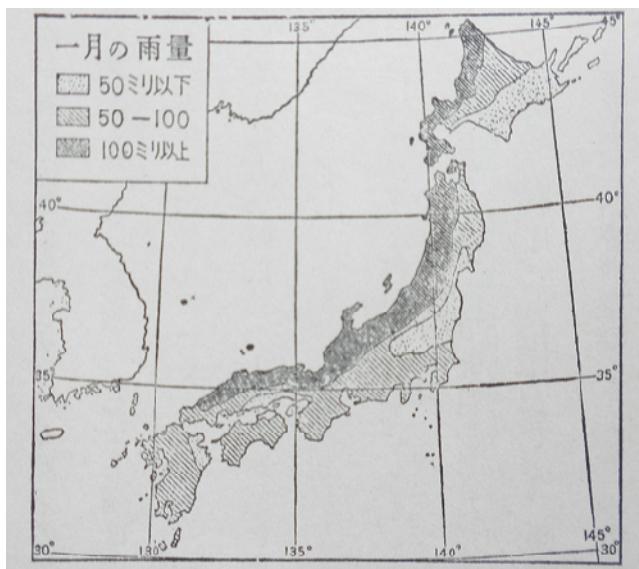
わが国でもこまかくみていけば、雨の多いところと少ないところがありますが、いっぱんには年に一五〇〇ミリ以上で、世界でも雨の多い地方となっています。世界で雨の多い土地は、熱帯を中心にした地域や、季節風などの吹き付ける斜面で、インドのアッサムのような地方では、一年に一万ミリ以上の雨量のある土地もあります。

世界で雨の少ない地方は、アフリカのサハラさばく、アジアのゴビさばく、タクラマカンさばく、アラビアのさばく、オー

ストラリアの西部の高地などです。これらの地方は、海から遠くはなれた高台か盆地、あるいは風が高地のためにさえぎられる風下の地方です。



上の図は、世界の年平均の雨量をあらわしたものです。本文をよみ、各地方の多い少ないを比較してしらべてもらいなさい。



わが国でも、北海道の一部や、瀬戸内海や中部地方の諸盆地のように、季節風が夏も冬も両がわの山地にさえぎられる風下の地方は、雨が少ない土地になっています。

また、カナダ、シベリアの北部の低地のような寒い地方でも、雨の少ないところがみられます。そこでは、一年に一〇〇ミリ以下の土地もあるほどです。

